

原 著

## 薬剤適正使用のための医師・薬剤師・患者における 減薬の考え方と今後の課題

新潟県厚生連上越総合病院；薬剤師<sup>1)</sup>、  
新潟大学医歯学総合病院、血液・内分泌・代謝内科；医師<sup>2)</sup>

村 上 幸 恵<sup>1)</sup>、山 本 修 也<sup>1)</sup>、今 西 明<sup>2)</sup>

目的：ポリファーマシーは重要な医療問題であり、国を挙げて立ち向かうべき課題と位置づけられている。しかし、実際の医療の現場では減薬が進んでいるとは言い難い。急性期病院である当院のポリファーマシーの現状と医師、薬剤師の減薬に対する意識を調査し、薬剤適正使用のために取り組むべき課題を明らかにする。

方法：実施期間：平成29年5月29日～6月20日  
外来を利用している高齢者（65歳以上）に内服に関するアンケートを実施し現状を把握する。当院医師、新潟県厚生連薬剤師会に在籍している薬剤師に減薬に対する意識と医薬連携についてのアンケートを実施する。

結論：医師・薬剤師は、減薬への意識が高く、より良好な医薬連携がとれる可能性がある。薬剤師が存在意義をアピールし、積極的に医師に対してエビデンスに基づいた処方提案をすることが薬剤適正使用のための減薬への取り組みの第一歩であると考えられる。

キーワード：ポリファーマシー、薬剤適正使用、減薬、高齢者、医薬連携

### 結 言

ポリファーマシーは高齢化社会において重要な医療問題である。近年、プライマリケアに携わる医療従事者を中心にポリファーマシーに対する意識は強くなりつつある。(1-7)

平成28年の診療報酬の改定では、入院後の減薬が加算対象になるなど、国を挙げて立ち向かうべき課題と位置付けられている。(8,9)

しかし、日常の業務を通じて、実際の医療の現場では減薬が進んでいるとは言い難い状況である。

今回、急性期病院である当院のポリファーマシーの現状と減薬に対する患者、医師、薬剤師の意識を調査し、薬剤適正使用のために取り組むべき課題を明らかにした。

### 対 象 と 方 法

当院外来に通院している高齢者（65歳以上）に対して、無作為に内服に関するアンケート調査を行い、当

院におけるポリファーマシーの現状と患者の考え方を把握する。

当院医師に減薬についての意識と医薬連携についてのアンケート調査を行い、今後の取り組みの方法について考察する。

新潟県厚生連薬剤師会に在籍する薬剤師に減薬に対する考え方と医薬連携についてのアンケート調査を行い、今後の取り組みの方法について考察する。

### 結 果 ・ 考 察

患者の約半数が当院だけでなく、複数の医療機関を受診しており、5剤以上服用していた。何のために内服しているかわからない薬剤や内服しても意味がないと思っている薬剤が存在しているが、患者から医師へ減薬を申し出ることではなく、医師と良好な関係を保ちたいという姿勢がうかがえた。主治医ではない医師からの減薬については少なからず抵抗を感じていた。適切な説明があれば抵抗を感じないことがわかった。薬剤師からの服薬指導を希望されていた。

当院の医師はポリファーマシーという概念を理解し、減薬に対して高い意識を持っていた。しかしながら、急性期病院であるため、自分が主治医ではない患者の場合、変更後の病態の変化をフォローできない、不利益があるかもしれないという理由で実際には減薬できていない。薬剤師からの処方提案に対しては抵抗なく、好意的であることがわかった。

大規模な新潟県厚生連16病院127名のアンケート結果より、薬剤師は薬の多剤服用が健康リスクになりうるという認識を持ち、ポリファーマシーの削減に介入したいという意識があった。多くが患者から多剤服用について相談された経験があるが、実際に減薬の処方提案をした薬剤師は半数程度であった。8割以上の薬剤師が医師への処方提案に対して抵抗を感じていた。また、急性期病院と慢性期病院ではポリファーマシーの取り組みに違いがあると考えている薬剤師が多く、ポリファーマシーを積極的に後押しする医師のいる病院は少なかった。

薬剤師がキーパーソンであり、一人一人が薬物治療、病態・疾患の知識の向上を目指し、自信をもって積極的に医師に処方提案することがポリファーマシーへの取り組みの第一歩であると考えられる。

今後、患者の多剤併用による健康リスクを回避するために多職種で連携し、地域の開業医や慢性期病院と

地域包括ケアを利用した情報共有ができるシステムの構築を考えていくべきである。(9,10)

## 結 論

当院においても高齢者のポリファーマシーの現状が明らかになった。

2025年問題を目前に、急性期医療機関でも減薬に取り組むことは急務であり、薬剤師が積極的に処方提案をしていくことがポリファーマシーの削減の第一歩である。

今後、当院薬剤部では、患者の多剤併用による健康リスクを回避し、患者本位の医療を提供する為に総合診療科と協働し、多方面からのアプローチを進めていきたい。

## 引 用 文 献

1. 日本老年医学会. 高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015. 東京:メジカルビュー社、2015. 11-6.
2. Milton JC, Hill-Smith I, Jackson SH. Prescribing for older people. *BMJ* 2008; 336: 606-9.
3. Hajjar ER, Cafiero AC, Hanlon JT. Polypharmacy in elderly patients. *Am J Geriatr Pharmacother* 2007; 5: 345-51.
4. Mallet L, Spinewine A, Huang A. The challenge of managing drug interactions in elderly people. *Lancet* 2007; 370: 185-91.
5. Pretorius RW, Gataric G, Swedlund SK, Miller JR. Reducing the risk of adverse drug events in older adults. *Am Fam Physician* 2013; 87: 331-6.
6. 小山光、草木等之、稲田節子、西田克次、森敏. 高齢患者の多剤併用療法における薬物相互作用の危険性. *医療薬学* 2003; 29: 100-6.
7. Dumbreck S, Flynn A, Nair M, Wilson M, Treweek S, Mercer SW, Alderson P, Thompson A, Payne K, Guthrie B. Drug-disease and drug-drug interactions: systematic examination of recommendations in 12 UK national clinical guidelines. *BMJ* 2015; 350(h949), 1-8.
8. 厚生労働省保険局医療課. 平成28年度診療報酬改定の概要、医薬品適正使用の推進①多剤投薬の患者の減薬を伴う指導の評価. 2016年3月4日版.
9. 厚生労働省医政局長、医政発0430第1号、医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について、2010年4月30日.
10. Scott IA, Hilmer SN, Reeve E, Potter K, Le Couteur D, Rigby D, Gnjjidic D, Del Mar CB, Roughead EE, Page A, Jansen J, Martin JH. Reducing inappropriate polypharmacy: the process of deprescribing. *JAMA Intern Med* 2015; 175: 827-34.

## 英 文 抄 録

Original article

Approach to dose reduction by physicians, pharmacists, and patients for the proper use of medication and challenges for

the future

Joetsu General Hospital; Pharmacist<sup>1)</sup>, Department of Hematology, Endocrinology and Metabolism, Niigata University Medical and Dental Hospital; Physician<sup>2)</sup>  
Yukie Murakami<sup>1)</sup>, Nobuya Yamamoto<sup>1)</sup>, Akira Imanishi<sup>2)</sup>

**Purpose:** It is an important medical problem, and the polypharmacy is placed with the problem that you should confront all over the country. However, it is hard to say that it advances in the spot of the real medical care to reduce medicine. I investigate the consciousness for reducing the present conditions of the polypharmacy of our House which is a hospital and a doctor, the medicine of the pharmacist for the immediate nature period and clarify the problem that should wrestle for drug proper use.

**Method:** I carry out a questionnaire about the internal use to an elderly person (65 years old or older) using an outpatient and grasp the present conditions. I carry out our House doctor, consciousness for reducing medicine to a pharmacist registered at the Niigata public welfare consecutive pharmacist society and questionnaire about the medicine cooperation and consider a future problem.

Most of [result, consideration] elderly people used a multiple drug together and understood that the drug which thought that there was not a meaning even if I took medicine existed. It felt resisting it to reduce the medicine from the doctor who was not family medicine. The doctor understood a concept called the polypharmacy and had high consciousness for Reducing drugs. I felt that oneself was hard to reduce medicine for the patient who was not family medicine. There was not resistance for the prescription suggestion from a pharmacist all doctors, and it was revealed that it was favorable. The pharmacist wanted to intervene in reducing medicine positively with recognition that multiple drug combination of the medicine could become the health risk. I received the consultation from a patient. However, I felt resistance in doing the prescription suggestion for reducing medicine. Many pharmacists wrestled at a hospital and the chronicity period, medical treatment type hospital for the immediate nature period and thought that it was different in a method.

**Conclusion:** A doctor, a pharmacist has a strong consciousness to reducing medicine, and better pharmaceutical cooperation may be produced. A pharmacist appeals to you for the significance of existence and thinks that prescription based on evidence is the first step of the action to it reducing medicine for drug proper use to suggest for a doctor positively.

**Key words:** Polypharmacy, proper use of medication, dose reduction, elderly patients, medical-pharmaceutical cooperation



